

HAKKODENSIS

撮影：田中定男氏

2013年2月10日

十和田八甲田地区
パークボランティア連絡会
第88号 会報

事務局（発行者） 阿部幸子

青森市中佃 2-15-5

Tel・Fax 017-741-8068

E-mail pv.0514@ruby.plala.or.jp

「新年のご挨拶」

会長 福村 誠

新年、明けましておめでとうございます。
東日本大震災の復興を強く願いながらも、早くも
二年目を迎えようとしております。

今年の干支は巳（蛇）年であります。古来より農
業信仰の対象の一つで、再生・復活の象徴としても
よく知られてはいます。どうぞ今年こそは復興へ
の道筋が具体的に現れて来る事を期待したいもの
です。

さて今年はおかねてより待ちに待ちわびた、十和田
湖畔にビジターセンターの着工建設が予定されて、
完成が待たれる年度となります。

我々PVもいろいろな研修や活動等に多く参加
する事によって、まずは見る事、それは知ること
につながり、やがては多くの経験の蓄積となりま
す。そして知識の集積もさることながら、それをど
のように活かして自分のものにしていくかという、
いわば知力と言ったようなものが必要と思われま
す。さらには、その活動自体の延長線上に結果して
いくものが、PV活動のさらなる活性化につながる
ものと思われます。

どうぞ本年もPV会員皆様
のご協力をお願い申し上げます。

環境省十和田自然保護官事務所

首席自然保護官 北橋 義明

新年明けましておめでとうございます。

十和田自然保護官事務所へ赴任して、早いもので
もう2回目の年明けを迎えました。昨年中は、パークボ
ランティアの皆様には、従来の植生復元や清掃活動等
に加え、鳶沼歩道での整備活動にも取り組んでいた
くなど、国立公園の管理に多大なるご支援、ご協力を
いただいております。改めて心から感謝を申し上げます。

さて、当初予定よりだいぶ遅れ皆様をさきませ
ていた新十和田ビジターセンターの着工式が昨年11
月末に執り行われ、今年の秋の竣工を目指している
ところです。新ビジターには皆さんの活動拠点としての
機能も盛り込まれており、近年観光客の落ち込みが激
しい十和田湖地域の活性化に関し、今まで以上にパー
クボランティアの皆様の活動の重要性が増すもの
と思っております。環境省としても研修会の開催等でサポート
していきたいと考えておりますが、より一層の皆様
のご協力をいただけますようお願いいたします。

自然に恵まれた十和田八甲田地域の様々な魅力
をより多くの方々に楽しんでいただけるように、引き続
き皆様のご支援とご協力をお願い申し上げますと
もに、パークボランティアの皆様自身も楽しく安全に
活動していただけますよう祈念いたしまして、新年の
挨拶に代えさせていただきます。

「新年のご挨拶」
酸ヶ湯温泉株式会社

代表取締役社長 大原 のり子

新年あけましておめでとございます。昨年のお大雪が記憶にも新しいところがございますが、この酸ヶ湯ではどうやらそれを凌ぐ勢いで雪が降り続いております。日頃よりパークボランティア連絡会の皆様におかれましては、自然環境を守るべく様々な活動として、日本の財産である十和田八甲田地区の植生の保護、美化清掃、利用施設の維持補修などに尽力されており、その活動につきましては心より敬意を表するところでございます。

酸ヶ湯温泉は、先人たちが守り続けてきたこの素晴らしい八甲田の山麓に於いて事業を営む者として、その使命を改めて見つめ直し、パークボランティア連絡会の皆様方と共に後世に残せる豊かな自然を守る活動に、今後も微力ながら協力させていただきますので、何卒よろしく
お願い申し上げます。

酸ヶ湯は今年も記録的な大雪で、1月30日に積雪深4mを観測しました。



「年頭雑感」

自然公園財団十和田支部 所長 鈴木 史郎

「国境のトンネルを抜けると雪国であった。」そんな一小節を思い浮かべながら宇樽部トンネルを抜け休屋にある自然公園財団十和田支部の所長に赴任したのは10ヶ月前のことです。

幼少のころ湖畔近くに住んでいた経験がある私にとって休屋は思い出の土地柄であり、訪問するたびにおぼろげな記憶がよみがえります。

また、休屋ではよく朝の散歩をしますが、尋常唱歌の「冬景色」を口ずさみつつ、棧橋付近の様子をこの歌の情景に見立てて楽しんでいきます。

ちなみにこの歌の歌詞は「狭霧消える湊江の舟に白し朝の霧 ただ水鳥の声はして いまだ覚めず岸の家」であります。ネットで調べたら海ではなく湖畔の情景をうたっているとの解説をみつけたところであり、今後、十和田湖を思い浮かべるとき必ずこの歌が脳裏をめぐると思っている昨今であります。さて明日(2月1日)からは「十和田湖冬物語」が始まるとあって現在、湖畔の人々は会場点検等に大忙しですが、会期中にはPVの皆様にも是非お越しいただき、冬の十和田湖の風情と民情に触れて頂ければ幸いです。

終わりに、十和田八甲田地区PVの皆様の日頃の活動に対して深甚なる感謝と敬意を表するとともに今後益々ご健勝でありますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。



【三月の活動予定】

冬の宇樽部自然観察会下見と野外研修

日時：2月28日(木) 10～15時(10時宇樽部駐車場集合)
内容：ノースビレッジガイド丹羽さんを招いての観察会下見を兼ねた現地研修。ガイドの技術を学べる貴重な機会ですので、ふるってご参加ください。

申込み：2月21日までに環境省へ(0176-75-2728)

平成24年度PV研修会

日時：3月3日(日) 9時30分～12時

場所：青森市中央市民センター 持ち物：三角巾

講義内容：奥入瀬のコケについて 応急手当講習

環境省から 申込み：2月25日(PV事務局まで)

環境省主催【冬の宇樽部観察会】

宇樽部から御倉半島周辺の散策

日時：3月10日(日) 9～15時(9時宇樽部駐車場集合)

スタッフ4名募集(2月28日の下見参加が必要です)

申込み：3月3日(PV事務局まで)

事務局から

今回の会報と一緒に「平成24年度活動報告書」を同封しています。提出期限を3月25日迄としますが、研修会に持参下されば助かります。

平成25年の新年も厳しい寒さで明け、降り止まぬ雪の片づけと共に、ひと冬毎に酷寒が身にしみる年の初めでした。静かに降る雪の中、冬の木立の風景もまた一服の絵のようで、間もなく春が来ると思えば、スコップを持つ手にも力が入る気がします。

「自然保護に引退はない」の励ましの声に背中を押され、今年も皆さんと共に活動に参加できればと思っております。春よ来い、早く来い。